

# 地域の歴史



## 1. 葛西、宇喜田という地名の由来は？

大昔、葛西、宇喜田のあたりは海の底でした。海水面が低くなると共に、利根川などから運ばれてきた土や砂が積もってこのあたりが陸地となったのは、今から約二〇〇〇年前の弥生時代のころだったと言われています。

今から約一三〇〇年前、大化の改新の後、日本では、朝廷の任命する国司が各地方を治める仕組みが整えられました。今の江戸川区の一带は、その当時定められた下総国葛飾郡に組みこまれていました。

この下総国葛飾郡はとても広がったので、いつしか、江戸川を境に葛飾の西は葛西、葛飾の東は葛東とよばれるようになったそうです。つまり、葛西という地名は、もともと「葛飾郡の西」という意味だったのですね。

平安時代に入ると大化の改新後の「公地公民制」はくずれ、力のある者が、荘園とよばれる自分の領地を治めるようになりま。平安時代の終わりに、「葛飾郡の西」で力を持っていたのは、葛西三郎清重というリーダーでした。土地の名にちなんで「葛西」を名乗った葛西清重は、後に、源頼朝に従って、平氏をたおす戦いで手がらを立て、鎌倉幕府の有力な武将のひとりになります。その葛西清重が、一一六五年、今の宇喜田をふくむ自分の荘園「葛西御厨」を伊勢神宮に寄進したという記録が残っています。このころの宇喜田はアシが生い茂る低湿地で、人はほとんど住んでいなかったようですが……。

今から約四〇〇年前、徳川家康が開いた江戸幕府によって、「葛飾郡の西」は下総国から分けられ、武蔵国葛飾郡に変わります。けれども、変わったのはよび名だけで、今の宇喜田のあたりが、ほとんど住む人のいない荒地だったことに変わりはありません。

この荒地を畑に変え、人が住めるようにしたのが徳川家康の家臣だった宇田川喜兵衛です。

一五九〇年徳川家康が江戸城に入ってから、江戸の町は急激な発展をとげました。増え続ける人口を養うためには、食料をた

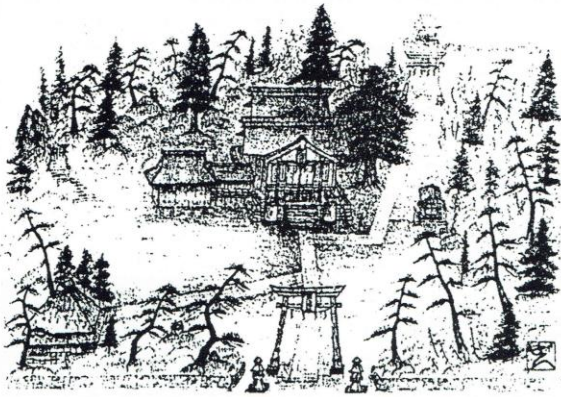
くさん作らなくてはなりません。徳川家康は、荒地を切り開いて新しい田畑「新田」を作ることをさかんにすすめました。

一五九六年、宇田川喜兵衛は人を集めて、葛飾郡の荒地を掘り返して沼を埋め、新田開発を成功させます。宇田川喜兵衛の新田、つまり「宇喜新田」の誕生です。「宇喜新田」はやがて宇喜田村とよばれるようになりました。

宇喜田という地名は宇田川喜兵衛と切っても切りはなせない関係にあるのですね。

宇喜田小学校の裏にある法蓮寺は、宇田川喜兵衛の子、定次が父・喜兵衛をしのいで、その屋敷あとに建てたお寺です。約四〇〇年前の一六二六年に建てられました。

同じく宇喜田小学校の近所にある「宇喜田稲荷神社」は宇喜田村の氏神様として、一六四三年に開かれています。



宇喜田稲荷神社

宇喜田は水気おおいの多い低湿地なので「浮田」ともよばれたそうです。池や沼地が多く、草むらが生い茂るこの地は鶴や雁、白鳥などの鳥たちにとってはかっこうの「えさ場」でした。そこに目をつけたのが、江戸幕府です。江戸幕府は、この地いきを、将軍が鷹たかを使って狩りをする場、つまり「鷹狩り」の場所に指定したのです。

「鷹狩り」を特に好んだのは第八代将軍、徳川吉宗でした。吉宗が「鷹狩り」のため、このあたりに何回も足を運んだという記録がのこっています。将軍の「鷹狩り」の場所「こがし場」になった宇喜田村の人々は大変でした。鶴などのえさになるタニシや小魚こいし、とじょうなどをとることが許されなかっただけでなく、「鷹狩り」のシーズンである秋から冬にかけては畑仕事を禁じられたからです。

さて、その後、宇喜田村はどうなったのでしょうか。

宇喜田村は今から約三〇〇年前の元禄年間に東宇喜田村（現在の東葛西）と西宇喜田村（現在の宇喜田町、北葛西・中葛西・西葛西）とに分かれます。



大半の地域は北葛西一〜五丁目となりましたが、「宇喜田」の名に愛着をもつ一部地区の人々はそのままの名前がよいということ  
で、呼び名を変えないよう強く要望し、宇喜田町の地番がのこる  
ことになりました。今、北葛西一〜五丁目に取り囲まれるような  
形で「宇喜田町」があるのは、そのせいなのです。

学校の所在地は北葛西五丁目ですが、ふつうに考えれば校名  
も「北葛西小学校」になるはずですが・・・由緒ある「宇喜田」  
の名前をとって「宇喜田小学校」と名づけられたのですね。

児童のみなさんには、「葛西」「宇喜田」という名前にこめられ  
た四〇年以上の歴史を感じとってほしいと思います。

## 2. 新川はどんな役割をはたしていたの？

みなさんにとって、なじみの深い地元の川、新川は自然の川で  
はありません。元からあった自然の川は、古川といひ、今は『古  
川親水公園』にそのなごりをとどめています。

江戸の町が発展するにつれ、日本各地と江戸の間にはさまざま  
な「道」が作られました。陸上の道だけではありません。「船の  
道＝水上航路」も重視されました。たくさんの人や物を遠くまで

運ぶときには船が使われていたからです。

徳川家康は、行徳（千葉県市川市）の塩を江戸に運ぶための航  
路（塩の道）を整備するよう命じました。しかし、旧江戸川から  
旧中川にぬけるための通り道だった古川は、曲がりくねっていた  
ため、船が通りにくく、交通のさまたげになっていました。そこで、  
一六二九年、三角（今の葛西図書館付近）から、旧江戸川に向けて  
川すじをまっすくにする工事が行われたのです。こうして生まれ  
た新しい川は、三角より西の船堀川と合わせて「新川」とよばれ  
るようになりました。以来三〇〇年間、新川は、江戸と北関東各  
地・東北地方をむすぶ重要な「船の通り道」として、米、塩、しょ  
う油をはじめとする食料などを江戸に運ぶ上で欠かすことのでき  
ない大切な役割をはたしました。当時、新川の川沿いには、みそ  
やしょう油、酒を売る店や「こったく屋」とよばれる料理屋、宿  
屋などが並び、大変にぎわっていたそうです。

江戸時代 幕府は、特別な場合をのぞいて、川に橋をかけるこ  
とを許しませんでした。新川にも橋がなかったため、人々は何ヶ  
所かにあった渡し場の渡し舟を使って川を渡りました。今の新渡  
橋の所にも渡し場（新渡し）があったそうです。

明治時代になると、水上交通はいつそうさかんとまりました。東京・深川と埼玉の栗橋をむすぶ利根川丸、東京・西国と千葉の銚子をむすぶ通運丸など長距離の定期航路を走る蒸気船（蒸気機関をそなえている船）が新川をいきかい、今まで以上にたくさん物や人を運べるようになりました。東京・銚子間を一日二往復、一八時間でむすぶ通運丸は特に人気が高く、成田山へお参りする人などもこぞって利用したそうです。



蒸気船「通運丸」

一八九四年に東京と千葉を結ぶ総武線が開通し、道路の整備もすすんでくると、一九一九年には、東京・銚子間の定期航路が廃止されるなど、人や物を運ぶ主役だった「水上交通」は次第におとろえを見せ始めます。東京の深川・高橋と千葉の浦安を結ぶ、短距離の「通船」（ボンボン船）も一九四三年には廃止され、最後まで残っていた新川の渡し舟も、新渡橋の完成にともない、一九四四年に廃止されました。

新川は、約三〇〇年にわたる「水上交通」のなめとしての役目を終えたのです。

新川が人々を困らせることもありました。新川沿いの土地は低いため、台風などによって増した水があふれ出し、あたりを水びたしにする洪水がたびたび起こったのです。

その一方、新川のおかげで宇喜田の町が洪水をまぬがれたこともありました。戦争（アジア・太平洋戦争）が終わって二年後の一九四七年九月、カスリーン台風が関東地方をおそった時のことです。カスリーン台風によって、利根川、荒川の上流部は大洪水となり、江戸川区内でも二万戸が

今の新渡橋付近を走る船（1935年）



対岸が宇喜田です。

新川の渡し船（1935年）



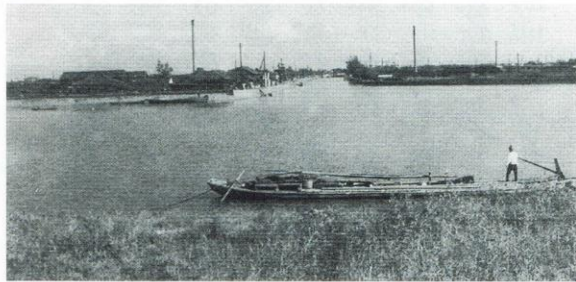
今、新渡橋がかかっている所に渡し場があります。手前が船堀側、向こうが宇喜田側になります。

床上浸水するという大きな被害が出ました。しかし、大勢の人々の努力で、洪水は新川南堤防で食い止められ、宇喜田の町は浸水しませんでした。

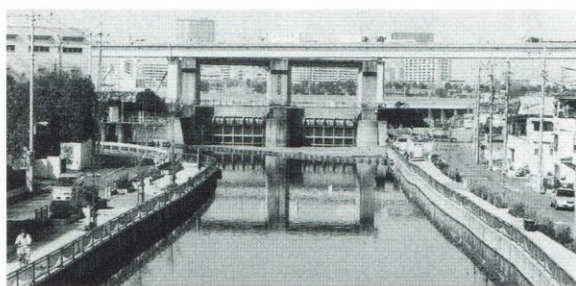
もちろん、うまくいかない時もあります。二年後、一九四九年八月のキティ台風では、新川の堤防もやぶられ、宇喜田でも床上、床下浸水の被害が多数出たそうです。

戦後しばらくたって工業がさかんになると、葛西地区では地下水のくみあげや地下水くみあげをとまなう天然ガスの採掘がどんどん行われたため、急げきな地ばん沈下が起こり、ただでさえ低かった土地が海面より低くなってしまいました。(一年間に二四センチメートルも地面が低くなってしまった所があったそうです。) また農家が多かった宇喜田には、田畑に水を送るための用水路がたくさんありましたが、満ち潮になると、川からこれらの用水路に、塩気の多い海からの水が逆流してきてしまいます。田んぼや畑に海水が入ると、塩害のため、米やハスが作れなくなってしまうので、海岸や川岸の堤防を高くしたり、あちこちに水門を設けたりして、海や川の水が低くなった土地に入ってくるのを防ごうとしました。新川の上下の合流点、つまり旧江戸川や旧中川との合流点にも水門が設けられ、船の運行はできなくなりました。低

旧中川と新川の合流点です。ちがいを比べて見ましょう。



1948年ごろ、奥が新川



2005年

い土地にたまった水を川にもどすための設備として、新川排水機場も作られました。

工場や家庭から出るよれた水が流れてくる一方、水門の設置で水の流れが悪くなったため、新川の水質はどんどん悪化してきました。以前は、洗たくしたり泳いだりできるほどきれいだった新川の水はよどみ、底にはヘドロがたまるようになりました。新川は、「わすれられた川」となってしまったのです。

### 3. 戦争の時代はどうだったの？

一九三二年に日本の関東軍が中国・東北地方で引き起こした満州事変は、やがて中国との全面戦争に発展します。その解決の見通しが見つからないまま、一九四二年二月、日本はアメリカ、イギリスに宣戦布告し、世界の多くの国を相手とするアジア・太平洋戦争へと突入しました。戦局は次第に不利となり、日本の多くの都市はアメリカの爆撃機による空襲にさらされるようになりました。空襲による被害をさけるため、宇喜田小学校の母体校である第三葛西小学校（当時は第三葛西国民学校）の子どもたちは、一九四四年から先生方に引率されて親元をはなれ、山形県の鶴岡市、潮見町、荒砥町に学童集団疎開をしたそうです。

一九四五年三月一〇日に、たったの一晚で約一〇万人



今の行船公園

### 4. 葛西・宇喜田はどう変わっていったの？

かつて、葛西地区は、遠浅の海岸が広がる豊かな海にめぐまれた「漁業の町」でした。冬は葛西のりの養殖、夏はあさりやはまぐりの採取でくらしを立てている人が大勢いました。葛西沖には「三枚洲」とよばれる約3kmにわたる干潟が広がっていて、種類豊富な魚介類が生息していたからです。葛西の海岸は潮干狩りや海水浴が楽しめるレジャースポットでもありました。戦後の重化学工業の発達と東京への人口集中は、この自然豊かな「葛西浦」を大きく変えました。

江戸川、中川や東京湾沿岸の工場から出るきたない水や生活排水のため、東京湾の水が大変よごれてしまい、プランクトンが異

が亡くなった東京大空襲では、新川の川沿いにも、あたり一面を火の海にする「しょうい弾」が落ちてきましたが、幸い大きな被害にはいたらなかったそうです。この東京大空襲では、あまりに大勢の方が亡くなられたので、葬る所がなくなってしまい、行船公園にも数百人の方を仮に埋葬したということです。このあと、四月一三日から一四日にかけての空襲で、宇喜田でも火災が発生したという記録がのこっています。

かつて、葛西地区は、遠浅の海岸が広がる豊かな海にめぐまれた「漁業の町」でした。冬は葛西のりの養殖、夏はあさりやはまぐりの採取でくらしを立てている人が大勢いました。葛西沖には「三枚洲」とよばれる約3kmにわたる干潟が広がっていて、種類豊富な魚介類が生息していたからです。葛西の海岸は潮干狩りや海水浴が楽しめるレジャースポットでもありました。戦後の重化学工業の発達と東京への人口集中は、この自然豊かな「葛西浦」を大きく変えました。

江戸川、中川や東京湾沿岸の工場から出るきたない水や生活排水のため、東京湾の水が大変よごれてしまい、プランクトンが異

常発生し、酸欠のため魚や貝が死んでしまう赤潮がたびたび発生するようになったのです。中でも一九五八年に起きた、「黒い水」(江戸川沿いの製紙工場が排出した、よごれた水)による漁業被害は、国会でも取り上げられ、大きな問題になりました。

水質の急げきな悪化により、遠浅で、あさりやはまぐりがいくらでもとれた葛西の海は死んでしまったのです。江戸時代からさかんだったのりの養殖もできなくなりました。

このころには、塩害のせいもあって、葛西地区の田畑もどんどんへって、うちすてられた田畑が目立つようになりました。耕す人がいなくなった水田や蓮田は、一面にアシの生えた沼地となり、広大な「ごみ捨て場」となってしまったのです。

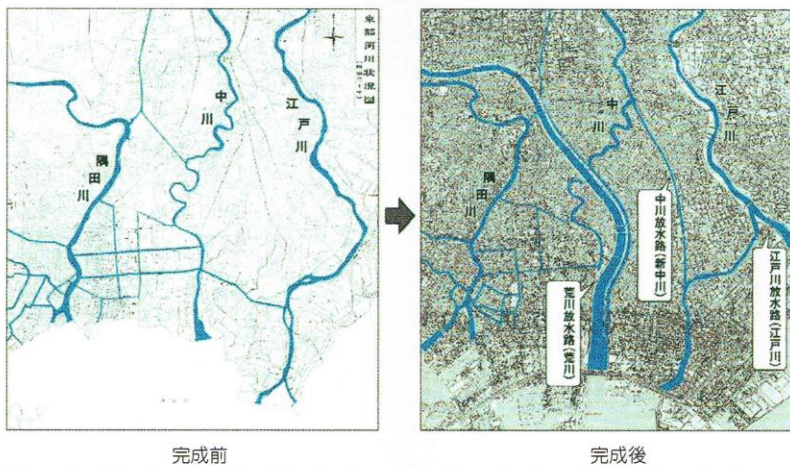
農業がおとろえていくのにもない、宇喜田では、水質の悪化がいちじるしく台風などの際、はならんしやすかったいくつかの用水路を埋め立て、道路や住宅に変える工事が進められました。新渡橋から続く今の宇喜田通りは、十八軒川(今の新田仲町通り)に連なる法蓮寺川を埋め立てたものです。

一九六三年には、中川放水路(今の新中川)の工事が完成し、葛西・宇喜田の人々は洪水を心配しなくてすむようになりました。

旧中川は、くねくねと曲がって流れていたため、大雨がふると水が堤防からあふれ、あたり一帯を水びたしにすることがあったのですが、新しくできた新中川によって、旧中川の水をまっすぐ旧江戸川に流すことができるようになったからです。

一九六七年からは宇喜田土地区画整理組合による区画整理事業が始まりました。荒れた田畑や細く入り組んでいた農道を整理統合し、直線の広い道路や四角に区切られた住宅地を作り出すという取り組みです。道路を広くまっすぐ

「中川放水路」(新中川) 完成前と完成後





にしてほそうしたり、新しく公園を作り出したりする中で、三〇〇戸が移転しなくてはならないという大事業でした。雨の日はごろんこになってしまった農道がほそ道路に生まれ変わり、学校へ通うのも楽になりました。上下水道、電気、ガス、電話などの整備もすすみました。宇喜田第一住宅ができたことや、今の宇喜田さくら公園、宇喜田中央公園が作られたことも区画整理事業の成果です。私たちの学校、宇喜田小学校の誕生も、この区画整理と大いに関係があります。

「区画整理」の完成前と完成後



完成前



完成後

なお、工業化による水質汚染で魚介類が死滅し、地ばん沈下によって、土地が海面下に沈んでしまった葛西沖の開発土地区画整理事業が始められたのは一九七二年のことです。一九九五年に完成したこの開発によって、三四八ヘクタールの埋め立て地が出現し、みなさんにもなじみのある葛西臨海・海浜公園や陸上競技場が作られました。

### 5. これからの宇喜田は？

一九六九年に東西線（東京地下鉄東西線）が全線開業し、一九八三年に新宿線（都営地下鉄新宿線）が部分開業すると、宇喜田・北葛西の交通はいちだんと便利になりました。

今、江戸川区は、新川の整備事業をすすめています。

一九九四年から二〇〇七年にかけて、東京都が川岸の耐震、環境整備工事を行い、中川との合流部から新川橋までの二kmが遊歩道として整備されました。その後、事業は江戸川区に引き継がれ、両岸の遊歩道に桜並木を作る「新川千本桜計画」が進められています。すでに新川西水門広場と火の見やぐら、江戸時代を思わせる四つの木造人道橋（やぐら橋、きぼし橋、忍者橋、小江戸橋）、

生まれかわった新川



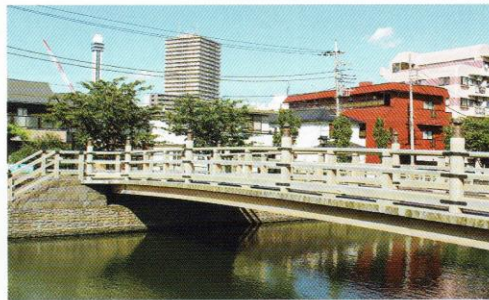
桜橋



小江戸橋



新渡橋



ぎほし橋

二つの広場橋(桜橋、花見橋)などが完成しています。このあと、新川橋から江戸川合流部までの工事が進められる予定で、計画通り完成すれば、物や人を運ぶ川としての役割を終えた「わすれられた川」新川は、人々に親しまれ、やすらぎをもたらしてくれる川として新たな役割をはたしてくれることでしょう。

宇喜田・北葛西はみなさんのふるさとです。商店や工場などが点在する緑豊かな落ち着いた住宅地である自分たちの町のよさを、これからも日々発見していった下さい。



参考文献

- ・概説江戸川の歴史(郷土歴史研究会)
- ・目で見える江戸川区の100年
- ・江戸川区HP「新川千本桜計画」
- ・江戸川区の区画整理によるまちづくり(江戸川土地区画整理事業団体連合協議会)
- ・宇喜田土地区画整理組合事業完成記念誌
- ・宇喜田小開校10周年記念誌、20周年記念誌
- ・西葛西小開校30周年記念誌、船堀第二小開校40周年記念誌ほか
- ・ウィキペディア「新川」「宇喜田」「葛西」「宇田川喜兵衛」「葛西清重」ほか